

日本維新の会共同代表・橋下徹氏の 旧日本軍「慰安婦」制度への暴言に抗議します

日本維新の会共同代表で大阪市長の橋下徹氏は、2013年5月13日、旧日本軍「慰安婦」について、「日本は国を挙げて慰安婦を強制していない。他の国でも慰安婦はあった」などと発言しました。これは、1993年8月4日に日本軍の強制を認めてお詫びと反省を表明した河野洋平官房長官談話に反する、許しがたい暴言です。被害女性の多くが強制的に、またはだまされて「慰安婦」とさせられたことは、被害者の証言や歴史的証拠からもあきらかです。

そのうえ、戦争当時「猛者集団の休息として慰安婦制度は必要だった」などと述べ、「慰安婦」制度を肯定しました。戦争のさなか、多くの女性たちが人権を蹂躪され、人間としての尊厳を否定されました。橋下氏の発言は、いまでも日本政府の誠実な謝罪を求めている被害者を、再び蹂躪する行為にほかなりません。

2013年5月1日に沖縄を訪問した際、橋下氏は米軍海兵隊司令官に「もっと風俗業の活用を」との暴言を吐きました。こうした発言からも、橋下氏の人権感覚の欠如が如実にあらわれています。一連の橋下氏の発言に、国内をはじめ各国から批判が相次いでいることは、その発言がいかに不当・下劣なものであるかということを物語っています。

過去の侵略戦争に対する反省がまったくなく、「慰安婦」制度を肯定し、強制性を否定すること、さらに風俗業界の女性に「慰安婦」の役割を果たさせようとしていることは、断じて許すことはできません。また、女性の人権を蹂躪する「慰安婦」制度を肯定することは、橋下氏の人権感覚が欠如していると言わざるをえません。こうした歴史への反省もなく人権感覚もない橋下氏に、大阪市長を務める資格はありません。ただちに発言を撤回し、被害者に謝罪するとともに、大阪市長を即時辞職することを求めます。

2013年5月17日

日本機関紙協会埼玉県本部

理事長 金子勝